
会 議 録

件 名：第4回「大隅地域における県立垂水高等学校の在り方に関する地区検討会」
(略称：垂水地区検討会)

日 時：平成24年3月28日（水）午前10時00分～11時30分

場 所：垂水市市民館 大会議室（市民館2階）

出席者：尾脇委員長・肥後副委員長・宮迫委員・北方委員・中川原委員・寺地委員・
今井委員・坂元委員・池田委員・山田委員・有馬（修）委員・岩元委員
伊集院委員・橋口委員・川井田委員
(オブザーバー) 小山垂水高校教頭
(事務局・その他出席者) 企画課長・課長補佐兼計画調整係長・計画調整係主査2名
教育総務課主幹兼庶務係長

欠席者：堀之内委員・有馬（勝）委員・田ノ上委員・八木委員・池之上委員

■開会：企画課長

■市長あいさつ：尾脇市長 (要旨)

この垂水地区検討会の役割は、「大隅地域の公立高校の在り方検討委員会」に提出する垂水高校の在り方を審議し、取りまとめを行うことであった。垂水地区検討会では3回の会議を開催し、垂水高校の在り方として、「地域に貢献し、地域に支えられる高校」であるべきということをまとめ、「大隅地域の公立高校の在り方検討委員会」の場においても首尾一貫として訴えてきた。3月19日に第6回、最後の「大隅地域の公立高校の在り方検討委員会」が開催され、全体的な結論において、垂水高校の在り方としては、我々の提言通りに認めていただいたところである。詳細については、事務局より説明をさせていただくが、大隅地域の他の高校の在り方として廃校や統合が議論される中、垂水高校に対しても大隅地域で充足率が最低であること、地元からの進学率が低調であることに厳しい意見を頂いた。しかしながら地元就職率の高さや、昨年、市民の皆様による多くの支援の実績、市広報誌等を通じてのイメージアップの取り組み、また何より受験生の獲得に向けた新たな取り組み、弓道部をはじめとする垂水高校自体の頑張りにより、「垂水高校が当面は現在の2学科を維持し、今後の垂水市等の支援により、地域に貢献し地域に支えられる高校を目指す」ということで存続自体はご理解いただいたことは特筆すべき事だろうと考えている。改めてこの場を借りて委員の皆様にご報告を申し上げたい、本当にありがとうございました。本日の会はこれまでの経緯を委員の皆様にご報告させていただくことを目的としている。

■議事

※企画課長：本会の設置要綱の規定により、本会の委員長は垂水市長、副委員長は肥後教育長、会の協議時の議長は委員長が務めることとなっており、尾脇市長に議事の進行をお願いする。

○議長（尾脇市長）：議題1「大隅地域の公立高校の在り方検討委員会」の会議結果等について、事務局より説明をお願いします。

●事務局（野嶋補佐、堀留主査）

- ・配布資料の確認。
- ・議題1「大隅地域の公立高校の在り方検討委員会」の会議結果等について説明。

○議長（尾脇市長）：ご質問・ご意見等はないか。

○委員：今回の受験で、垂水市以外から合格者、希望者の人数、割合はどのぐらいか。

●事務局（野嶋補佐）：最終的な結果はこれから収集する予定だが、垂水高校から教頭先生が出席することになっている。おいでになった時に質問して頂ければと思う。

○肥後副委員長：私がかかっている範囲では、合格者は、普通科は18人、生活デザイン科は26人の44人。市外から普通科は3人、生活デザイン科は9人である。

○議長（尾脇市長）：他にないか。

○委員：お願いだが、昨年7月の希望者が30人、それが2月で50人になり、良い結果が見られたということだが、垂水高校の新1年生に、なぜ垂水高校に来ることを決めたのかなどのアンケートを取ってほしい。今後役に立つと思う。

○議長（尾脇市長）：他にないか。（「なし」の声あり）

○議長（尾脇市長）：次に議題2「垂水高校振興支援事業の平成23年度の活動経過等について事務局より説明をお願いします。

●事務局（野嶋）

- ・議題2：「垂水高校振興支援事業の平成23年度の活動経過等について」説明。

○議長（尾脇市長）：ご質問・ご意見等はないか。（「なし」の声あり）

○議長（尾脇市長）：議題3「垂水高校振興支援事業の平成24年度の展望について」事務局より説明をお願いします。

●事務局（野嶋補佐）

・議題3：「垂水高校振興支援事業の平成24年度の展望について」説明。

○議長（尾脇市長）：ご質問・ご意見等はないか。

○委員：事務局から説明があったが、第6回大隅地域の在り方検討委員会では、こちらが提出した提案を認めていただいたが、それを受けて委員長が私案を説明する中で、「垂水地区検討会は提案を認めていただいたと前向きに受け取っているようだが実際は厳しい。深刻な状況にあるということを踏まえた上でしっかり取り組んでいただき、少しでも充足率を上げるなど、頑張ってください」という意味だと話された。今回の受験も50名希望して0.63で昨年並みだが、最終的に入った子どもは44人、0.55である。今までが0.59なので充足率という意味では更に下がり厳しい状況にあるということを確認した上で、1年1年が勝負という形で取り組んでいかないと厳しいということは思っておかないといけない。垂水地区の委員が大隅地域検討会で、当面というのは何年くらい見てくれるのか、ということをおっしゃられた。だから、悠長に構えてはられないという部分はあると思うし、先ほど中央中から入学している生徒が32名、中央中の卒業生は年141名。これまでは4分の1くらいが入学しているようだが、今度は4分の1よりも少ない生徒が垂高に入学する。今年度は、垂高の先生が中央中で説明をしていただいて、最初17名しか希望者がいなかったのが倍くらいになっている結果はあるが、さらに中学校にアプローチをして地元の生徒たちが入学する取り組みも必要だとこの数字を見て思った。市も精一杯頑張るが、皆様のご協力もお願いしたいと思う。

○議長（尾脇市長）：他にないか。

○委員：21ページに検定受験料全額補助については、後で説明があると思うが、説明を聞いていると、垂高は生活デザイン科に力をいれたいというのがあるように思う。検定受験料全額補助は生活デザイン科のみに特化した補助になるのか、進学の実検などにも全額補助をすると話されても本当なのかという気がする。それから受験についてだが、19ページに広報で1月に進路の結果発表があったが、これは、これからセンター試験、1次2次と受けていく生徒たちにとっては非常に辛い内容の発表だった。これは、これから受験をする子にはマイナスイメージになったのではないかなと思う。それから受験体制のバックアップについて、この中に入ってないと思う。2名でしたが、年末からお正月にかけて、学校の補習授業を受け、その後家に帰ってきてご飯を食べてから、市民館等の施設を自己負担で借りて勉強していた。そういう受験生に対

してのきめ細やかな教育環境の充実等も盛り込んでいただけたらいいのではと思う。それから部活動への支援補助について、今回、特に弓道がよかったが、中央中で強い部活が高校へ進学しても継続して地元で活躍できる環境をつくっていただければと思う。吹奏楽をしていた生徒たちが他校に行くという必要もなくなると思う。垂水高校に進学したいというのはそれだけ魅力があるか、将来生徒たちがやりたいことも含めて展望できるような内容が必要だと思う。それから、これから市が行っていくということではなく、高校が行っていくということで、保護者・生徒が頑張っていくことが大事である。現在、高校に通っている生徒や生徒の親は、それだけ学校を評価して通わせているわけだが、その生徒たちに普段の部活や勉強に負担のかかる催し等に参加させるのではなく、彼らが自分たちの学校生活をやっている中で、ここに来たら自分たちが上手に表現できたというようなバックアップであってほしいと思う。特に私が今まで思うのが、市外から来た人たちが行かなければいけないというのではなく、元々ここで生活の糧を得ている市役所職員の方とか、地元企業の方とか、本当に垂水が活性化しないといけないと思っている方の子ども達を進学させると、自然に学校も盛り上がっていくことは間違いないと思う。その子その子の意志に関わらずとおっしゃるのは分かるが、どうにかして垂水市を盛り上げたいと思ってる方々が努力されるのが一番必要と強く思う。会議等で市役所職員の子どもの何人入学しているのかと言われる。私達、垂水高校に進学させている親は、垂水高校に元気がないとか、元気を出せと話されている市の方たちが本気で自分の子ども達を進学させて下さればもう少しやりやすく動くと常々思っている。そこら辺の所を上手くできれば、市ももっと活性化するし、垂水高校だって自分たちの学校だと思ってもらえると思う。

●教育総務課（主幹兼庶務係長）：質問にありました検定受験料の算定ですが、垂高側に資料提供を依頼しまして、英語検定、数学検定、漢字検定、珠算、簿記、ワープロ、情報処理、その他、全ての受験生、単価までお聞きし平成23年度の実績で予算化している。平成24年度に検定を受験する生徒の人数は、受験し、明らかに合格しない生徒まで受験していただくということではないが、判断は高校側にしていただくようにし、平成24年度は、実績に基づいた数字を算定している。

○議長（尾脇市長）：報告があった通りだが、一定のルールは必要だと思う。例えば英検3級を受験したけど不合格。何回でも受験できるということになると、そこはルールを決めなければいけない。生活デザイン科だけでなく普通科の生徒が受験したいというものもデータを調べている。これから話合いの中で色々な資格・試験を受験してみたいというのは今後の話合いである。その事は、3月議会で提案し議員の皆様にご理解をいただき、議決され了承いただいた。資格・試験科目に関してはあらゆるものを対象とし、

今後もっと必要な資格・試験科目等があれば提案をしていただき対応していくことになる。

●事務局（野嶋補佐）：・・・委員からも貴重な提言を頂きましたので、今後の活動に役立てていきたい。

○議長（尾脇市長）：他にないか。

最後に、私から総括的にご挨拶を含めお話をさせていただきたいと思う。在り方検討委員会がスタートし、最初、垂水高校はターゲットにされていたような感じさえした。充足率が一番低いという数字的な根拠があったせいかなと感じた。昨年3月議会で市議会議員が垂水高校問題をどうしているのかと質問をされ、今申し上げられるのはまず係を決める。そして政策を立案し予算を組むという考え方を示した。当面、係は企画課の担当職員が中心になり、まず現状の実態を把握し、第1回の在り方委員会に臨んだ。その時の垂水高校の提案は、そういったプロセスを踏まえていたから、業者に委託し作り上げられたようなものと勘違いをされた。そういったところで危機感がないと言われた。実際はそうではなく、危機感があるからこそ先行して現場の声を聞きながら作成したものである。その事は会を重ねるごとに御理解を頂き、最終的に垂水高校は、ほとんど協議の対象にならないという形になり、曾於市は3つあった高校を1つにするという方向でやっていただきたいとか、有明高校に関しては廃校というような形で話されている。最初この話が出たときに思ったのは、子どもの絶対数が減少するから、最終的にはここの中である程度絞り込みがあるのではないかとということであり、そうことも考え当面どうするかということ急がせ行動させた。政策の面では、在り方案が政策であり、具体的な施策が決定しなかったもので、予算措置、議会に対しての予算の提言が遅れた。それまでに決定していれば、9月議会辺りで議会に提案も出来たが、その決断がこの間出たということである。平成24年度の新入生の生徒たちに対応策を話す機会は結果的にはなかったわけだが、今後他の学校が行っている通学費関係の負担、制服支給についてのご意見もあるので、色々な形でどうようなことが出来るのか議会にも提案をしていきながら、また皆さんの声を大事にしながらやっていきたいと思っている。・・・委員からありましたが、この問題は自分が垂水高校出身であるないに関わらず、子どもが通っているいないという問題ではなく、垂水市からなくなったことを考えた場合、垂水市民全体に与える影響が非常に大きい。中学生の進路先ということもあるが、それを超えてあらゆる意味で影響がある。垂水高校の支援はしっかりとやっていかなければいけないと施政方針にも謳った。色々なご意見があった中で、今までのやり方が十分できているとはいえないが、最低の

目標は達成できたと思う。大事なことは、ある意味時間的な余裕をいただいたので、この中で垂水中央中の生徒をはじめとして、垂水高校に進学したいと思わせる支援策をこれからしっかりと考えていかなければいけないなど思っている。私も垂水高校の同窓会会長も兼ねているが、同窓会活動というのもほとんどできていないので、この辺もどうやっていくかなど、以前、・・・委員からも提案があった千人会のような市民の皆さんが協力を出来るような体制作りということはどうしていくかなど、やり方は色々あると思う。いずれにしても垂水も含めて大隅全体の子ども数が減少していくという前提があるので、その事を踏まえながらどうやっていくか、今後、垂水市全体の問題として考えていかなければいけない事なので、色々な皆様と相談をしながら、垂水市としてできる事はやっていきたいと思っている。その事を御理解いただきたいと思う。

○委員：振興対策協議会へ移っていくということだが、以前、対策協議会を垂水高校で開いていただき生徒たちの授業を見させていただいたことがある。今度は時間の空いている先生方には振興対策協議会へ参加していただけたら、私たちの気持ちなどをわかっていただけるような振興対策協議会の開催についてお願いをしたい。

○議長（尾脇市長）：先日、関係の皆様と話をさせていただいた中で、・・・委員からも部活動の支援について話がありましたが、垂水高校にもテニスを指導できる先生がいらっしゃるなど、弓道も頑張っている現状もあり、生徒は一生懸命頑張っている中で過度のプレッシャーについての配慮など、先生方と話をする機会もなかった。広報活動も、垂水市の広報係で取材をしながら情報発信でしたが、今後は窓口の担当を決めていただくということも聞いている。また内容も、さらに充実をしたいと思っているので、1人でも2人でもプラスの方向に向くよう努力をしていきたいと思っている。ここからがまたスタートということで皆様の御協力をお願いしたいと思う。

以上で議事は終わらせていただきたい。

●事務局（倉岡課長）：垂水高校から教頭先生に来ていただいているので、この1年を振り返る意味でご挨拶を頂ければと思う。

○垂水高校教頭先生：この1年間、垂水高校の支援をたくさんいただき感謝する。本来学校は、最初から私立学校のような宣伝をし、生徒募集に係ることが20年、30年前にあったかというところではない。ですが、今、少子化の中で学校としてもPR活動をしていかなければいけないということは職員も十分わかっている。本来は授業、その他の指導で学校のシステムは20、30

年前と変わっていない。できる事を少しでもやるべきだということで職員に意識はある。しかし、垂水高校として一番大事なものは預かっている生徒の指導である。あくまでもここに一番力を置きながら、できれば中学校から入ってくる生徒の数を増やしていきたいというふうに考えている。その足りない所を、振興対策委員会、垂水市にはたくさん援助して頂き、職員一同そういうことは十分感じている。本日校長は出席できなかったが、委員の皆様によろしく伝えてほしいということであった。この場を借りて感謝の意を申します。ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

●事務局（倉岡課長）：最後に、閉会のあいさつをお願いする。

■閉会のあいさつ：肥後副委員長（教育長）

協議でもあったように、地区の検討会で委員長のまとめは垂水市の案を認めていただいた。そして当面はこのままいくと、しかし当面なのでこのままずっと行くというわけではないので、危機感を持ってやっていかなければならない。結果的に入学人数は、昨年よりも若干減少してしまい申し訳ない気持である。ただ兆しは見えているという思いはある。教育委員会で月1回程度、校長会を開催しているが、本年度は10月に垂水高校でも校長会を開催した。そして垂水高校校長先生にもお話をさせていただき、授業の様子を見たりした。その時に校長先生の説明を聞きながら、7月には高校紹介があり各高校が中学校に行き説明するが、それだけではなく垂水高校の具体的な事を紹介してほしいとお願ひし、12月7日に校長、教頭、先生方、子ども達も行き、実際に部活動の弓道の実演をし、料理をつくり、裁縫を行い、具体的な生徒の姿を3年生に見せていただいた。それが子ども達には強く響いたようで、その時、最後にお礼の言葉を生徒会長が次のように挨拶をした。「僕はまだどこに行くか迷っていたが、今日はこの説明を聞いて垂水高校に行く決意ができました。」という話をみんなの前でし、私は本当に感銘を受けた。こういうことがおそらく来年度以降につながる。今度は3年生だけに説明をするのではなく、それぞれの学年で感じると思うので、1年生から3年生までにしてほしいと思っている。1年1年高校も努力をしていただいているので、私どもも出来る限りのバックアップをしていかなければと思っています。市長も言われましたが、平成24年度は議会で予算も認められたので、新年度になりましたら、高校でもこういうことを行うと提案をしていきたいと思う。この会は本日で終了するが、ここにお集まりの方々ほとんどが振興対策委員会の委員でもあるので、今年1年の取り組みを基にしながら、新しい取り組みをしていきたいと思う。どうかよろしくお願ひします。

■閉会：企画課長

以上で第4回大隅地域における県立垂水高校の在り方に関する地区検討会を閉会する。